

Title	CHEKKORI-NOW (息子の部屋)
Author(s)	裴, 京姫
Citation	デザイン理論. 57 P.146-P.147
Issue Date	2011-06-30
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/53477
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

CHEKKORI-NOW (息子の部屋)

裴 京姫／大阪芸術大学大学院博士後期課程

パネル発表では、自作の蠟染め六曲屏風《CHEKKORI-NOW (息子の部屋)》(175×486cm)を展示した。わたしは大阪芸術大学博士課程に進学して以来、「蠟染めによる『チェッコリ図』の現代的表現」を研究課題に制作研究を続けてきた。今回の発表作品はそのシリーズで十数点試作した後の大作の試みである。

チェッコリ図は18世紀から20世紀初期まで朝鮮で流行した静物画である。チェッコリとは本とその周辺のことを意味するが、初期のチェッコリ図では、宮中で学問に精進する者のために本や文房具などが屏風に描かれた。儒教の影響を受けた朝鮮時代には、宮中の官吏階級と、士大夫や庶民の間に身分的格差があり、チェッコリ図は宮中で使われた支配層のみの装飾画であった。しかし後に儒教的、あるいは学問的要素に幸福と多産そして長寿を祈願する吉祥的要素が描き加わり、新興富裕層にも広く行き渡るようになり流行した。宮中で使われた屏風形式でのチェッコリ図は当時の中国の清から学んだ透視図法や陰影法などにおいて西洋画の影響を受けており、後になって、庶民の新興富裕層にひろくゆきわたる過程で、伝統的な民画の様式をとりもどし、庶民の願いを反映するさまざまな吉祥モチーフが加わるようになった。東洋独特の逆遠近法を用いて画面が構成され、平面的、装飾的な特徴をしめす多視点、逆遠近法などが用いられるようになった。

文房図であるチェッコリ図は、単なる鑑賞用や、庶民の羨望の品物を見せびらかすものとしてあったのではない。李禹煥はチェッコ

リ図を「文房図」として、次のように記している。

文房図は、装飾性が強いとはいえ、単なる鑑賞用か、みせびらかしのものとしてあったのではない。書斎を飾るという場所の限定からもうかがえるように、いわば気品を高め真理を体得する道場の教示図か雰囲気醸成体的役割が大きい。学者願望や学問崇拜の産物とでもいえようか。当時庶民にとっては、学問が出世への最大の道であったとみれば、文字図とともに、これもまた勉学者の伴侶として、学問の師として、志の図として、非常に大事に飾られたことは想像にかたくない。」(『韓国の民画：文房図』グラフィックデザイン第53号 1974 講談社)。

庶民の願望や羨望を切実に、直截的にあらわし、それを飾る意味に、勉学者ばかりでなく生活者の「伴侶」、「師」、あるいは「志の図」としてのチェッコリ図のありかたの指摘に、私はおおいに共感し、その共感が、私がチェッコリ図にとりくみはじめた主要な動機となった。

勉学者であり生活者である私のチェッコリ図は、現代に生きる私の願望や羨望をあらわすものでなければならない。過去のチェッコリ図には庶民の学問への憧れの感情があったが、もちろん私自身にも同じような感情がある。そればかりでなく、子供に対する愛情の表現や現実の生活の一面をありのままを肯定的に描こうともした。また、儒教理念に基づいたチェッコリ図の伝統的な表現様式を踏襲

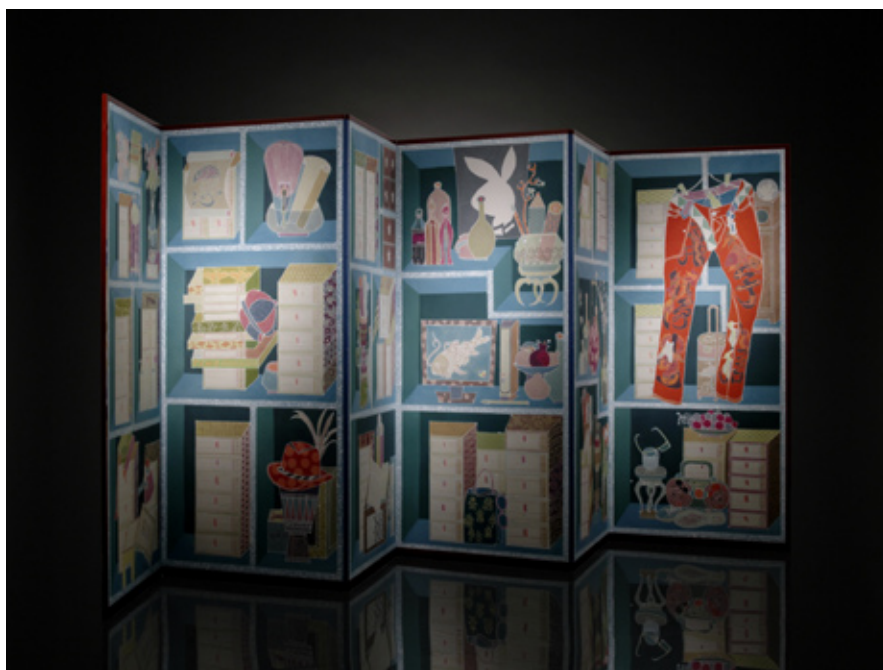
しつつ、時代や支持母体によって変化していくチェッコリ図の造形性、表現様式にも着目し、自由な題材、表現方法でチェッコリ図から感じ取った魅力を自分で演出、表現した。

私の表現モチーフには、今も昔も変わらない人間の願望や憧憬の象徴を取り入れている。伝統的な吉祥物から、現代社会の諸道具まで、私自身の価値観でモチーフを選んでいる。自由な想像の世界を演出し、童話的かつ現実的な雰囲気のある作品をめざした。

日本画のなかにはユーモアに富む新風を吹き込ませた現代作家がいる。“ニッポン画家”の山本太郎は屏風、掛け軸などに遊び心で現代を表現している。大きな屏風の画面に、ダイナミックな展開や風刺の強い印象を与え、新しいジャンルの絵画様式を作りあげている。私の作品にも、チェッコリ図の伝統様式に現代モチーフを描く現代の風刺諧謔がある。

元来チェッコリ図は紙、絹布、麻布などに描かれてきたが、私は綿布に染色する。具体的には下絵のラインを、チャンチンを用いて防染のための蠟を描線し、その輪郭のなかに色挿しするという方法である。

今回発表した作品は、私的な家庭の風景をモチーフにしたシリーズの一点で、息子の部屋をテーマにしている。儒教精神の流れをくむ伝統的なチェッコリ図の様式を染色屏風にとりいれながら、現代のリアリティを表現した。現代の家庭に展示されることによって、伝統的なチェッコリ図の機能を、現代によみがえらせようとする意図がある。また、伝統様式と、現代のモチーフ、染色による表現などが、調和したり、不協和音を奏でたり、あるいは風刺諧謔のおもしろさとなったりすることを期待しながら制作した。



六曲屏風《CHEKKORI-NOW (息子の部屋)》
(175×81cm) 2009、綿布・染料、蠟染染め